

なお、木簡の釈読については、秋田大学教授新野直吉氏、東北大  
学助教授今泉隆雄氏、奈良国立文化財研究所寺崎保広氏の御教示を  
得た。

福井・角谷遺跡

かどや

所在地 福井県三方郡三方町向笠

調査期間  
一九八八年（昭63）三月、五月～六月

発掘機関  
三方町教育委員会

調査担当者 田辺常博  
監修者 矢野伸

遺跡の年代 三世紀末～一〇世紀

遺跡及び木簡出土遺構の概要

内谷遺跡は、三方町東部の高瀬

角谷遺跡は、三方町東部の高瀬川扇状地に営まれた遺跡で、標高二二三一の最高点にて位置する。

(山崎文幸)



考えられる田名遺跡が所在

周辺には、縄文時代から平安時代の遺跡が点在している

「若狭国三方郡能登里中臣

廣足一斗……と記された

「作木方簡及び『西家』等の墨書き器が出土した宮町跡二

考證の歴史

する（『木簡研究』第九号）。

沢文は奈良国立文化財研究所の寺崎保広氏の御教示による。

(田辺常博)

一九八五年より実施されている県営圃場整備事業にともない発掘調査が行われた。その結果、弥生時代後期末の完形品を多く含む弥生土器及び農具・紡織具・板材等の木製品を多量に出土する包含層が検出された。奈良・平安期の遺構は、直径二五cm内外の柱根及び柱穴群、東西方向に割板・杭を一定間隔で打ちこんだ柵列状遺構が検出され、八世紀から一〇世紀に比定される須恵器・土師器・鉄製の刀子・木製品などが出土している。また、墨書き土器が二点出土し、うち一点は「秋」と判読できる。木筒は、須恵器・土師器の小破片、栓などの小型木製品、木屑等を包含する砂礫質土層より出土してい

なお、当遺跡の所在する向笠集落は、鎌倉時代初期の正治元年（一一九九）から伊勢大神宮の御厨になつてゐる。

8 木簡の釈文・内容

(1) ●  
X  
□ 今日

×  
□ 布  
□ 一  
□ カ

天平四年十月廿八日  
—  
(133)×(24)×6 081

(133)×(24)×6 081

木簡は、表裏面ともに記された文書木簡で、上端・側面を欠損している。

